

機関誌「Journal of the Vacuum Society of Japan」投稿規程

2015年2月6日改訂
日本真空学会編集委員会

機関誌「Journal of the Vacuum Society of Japan」は、毎月1回日本真空学会が発行する真空およびその関連分野に関する専門誌で、原著論文、解説、およびその他の関連する記事を掲載する。会員、非会員、日本国内、国外を問わず、投稿することができる。用語は英語または日本語とする。投稿された原稿は、編集委員会が専門家に査読を依頼して、その評価結果に基づき掲載の可否を決定する。

1. 原稿の種類

1.1 原著論文 (Original papers)

1.1.1 研究論文 (Regular articles) 刷り上がりで A4 判 6 ページ以内 (英文要旨を含む) を原則とする*。真空の科学・技術・応用に関連する分野の原著論文で、科学的、技術的観点から価値あるもの。

1.1.2 速報 (Letters) 刷り上がりで A4 判 3 ページ以内 (英文要旨を含む) を原則とする*。真空の科学・技術・応用に関連する分野の新しい現象、工夫、考察など、速報的内容を持つ原著報告。

1.2 解説 (Reviews) 刷り上がりで A4 判 8 ページ以内を原則とする*。ある分野の研究動向、技術動向について、執筆者の思想、主張が盛り込まれた総合報告。文献が整備されていることが望ましい。

1.3 研究紹介 (Research notes) 刷り上がりで A4 判 8 ページ以内を原則とする*。著者あるいは著者を含むグループの研究を主題として、専門外の人にも理解できるように説明したもの。または、最新の産業への応用事情などを幅広く説明するもの。

1.4 製品紹介 (Product notes) 刷り上がりで A4 判 3 ページ以内を原則とする*。商品の販売を目的とした宣伝用のものでなく、真空にかかわりのある材料ならびに装置に関する紹介記事。

1.5 講座 (Lectures) 刷り上がりで A4 判 8 ページ以内を原則とする*。解説記事に準じ、初学者にも理解できるよう配慮されたもので、連載形式になる場合がある。研究史・技術史なども含む。

1.6 その他の記事 (Others) 序論、図書紹介 (それぞれ A4 判 1 ページ以内を原則*)、技術メモ、報告、会議報告 (それぞれ A4 判 3 ページ以内を原則*)、技術資料、随想 (それぞれ A4 判 6 ページ以内を原則*) など。必要に応じて分類を加えることがある。

*速報 3 ページ以内、研究論文 6 ページ以内、解説 8 ページ以内などのページ制限を著者責任で超過した場合、1 ページあたり 5000 円の超過料金を著者に請求することがあります。

2. 二重投稿の禁止

2.1 同一著者またはその一部が執筆して他の論文誌に掲載済み、または投稿中の論文は投稿を認めない。なお、記述する言語が異なっても、内容が同一または極めて類似している場合も投稿を認めない。

2.2 論文誌以外の公開出版物 (真空に関する連合講演会や他学会の予稿、日本真空学会が主催する研究例会・研究会などの予稿、官公庁、学校、会社等の機関誌、大学等が発行する紀要、特許公開・公告公報に出版された内容など) に掲載済み、または投稿中の論文については、著者または日本真空学会が著作権を保有している限り、本誌に投稿することができる。ただし、その旨を事務局へのコメント欄に明記すること。

2.3 原著論文 (1.1 参照) 以外の原稿の場合、他の論文誌に掲載済みまたは投稿中の論文と同一テーマであっても、真空誌向けに書き改めたものは投稿を認める。ただし、その旨を事務局へのコメント欄に明記すること。また、原著論文から図、表、まとまった文章等を転載する場合は、その論文の著作権を持つ出版社 (あるいは学会等) から転載許可書をもって添付し、転載箇所には引用文献番号を付け、元の文献を引用文献リスト中に記載すること。

3. 投稿原稿の取扱い

日本真空学会編集委員会は、投稿された原稿を下記のように取扱う。

3.1 受付日は原稿が電子投稿された日付とする。

3.2 原著論文の場合、該当する分野の専門家に、原著論文として適格か否かの評価を依頼する。これに基づき同部会が掲載の可否を決定する。なお、原稿の修正を投稿者に要請する場合がある。ま

た、査読依頼に先立って編集委員会から原稿の修正等を求めることがある。

- 3.3 修正・短縮などの変更を求められた場合は、査読所見・編集委員会所見に対する回答を添えて、6ヶ月以内に再提出する。期限以内に再提出されない場合は、撤回とみなされる。
- 3.4 大幅に訂正された原稿は新規投稿原稿とみなされる。
- 3.5 原著論文以外の場合であっても内容、表現が記事の趣旨に適っているか否かについて、3.2と同様の処理をする。

4. 著者校正

初校は著者が行う。それ以後の校正は学会事務局で行う。校正の際の加除筆は原則として認めない。

5. 投稿料、カラー印刷料金と別刷代金

5.1 依頼原稿以外の原稿については投稿料が必要である。その場合、投稿料のみを支払うか、あるいは投稿料込みの別刷料金を支払う。料金は下の表のとおりである。

5.2 図のカラー印刷を希望する場合、最初の図は50,000円、図2枚目以降は図1枚につき10,000円とする。

5.3 オンライン版(J-STAGE)のみを、カラーの図にする場合は、図1枚あたり1,000円。

5.4 別刷を必要とする場合には、チェックリストに必要部数を50部単位で記入する。別刷は著者の負担とし、著者校正までに申し込むこととする。なお「Journal of the Vacuum Society of Japan」誌の別刷代金を下表に示す。

(1) 別刷代金は、個人、学校、研究所、会社等による区別をせず、一律とする。

(2) 別刷の請求部数は、50部の倍数とする。

別刷料金(円)表 (消費税別)

	投稿料(税別, 円)			別刷50部(税別, 円) (投稿料を含む)			別刷が50部増えたときの 追加料金(税抜, 円)		
	非会員	会員	依頼	非会員	会員	依頼	非会員	会員	依頼
1頁	10,000	5,000	0	12,000	7,000	5,000	+2,000	+2,000	+2,000
2頁	15,000	10,000	0	17,000	12,000	10,000	+2,000	+2,000	+2,000
3頁	20,000	15,000	0	22,000	17,000	11,000	+2,000	+2,000	+2,000
4頁	25,000	20,000	0	27,000	22,000	12,000	+2,000	+2,000	+2,000
5頁	30,000	25,000	0	33,000	27,000	13,000	+3,000	+3,000	+3,000
6頁	35,000	30,000	0	38,000	33,000	14,000	+3,000	+3,000	+3,000
7頁	40,000	35,000	0	43,000	38,000	15,000	+3,000	+3,000	+3,000
8頁	45,000	40,000	0	48,000	43,000	16,000	+3,000	+3,000	+3,000
9頁	50,000	45,000	0	54,000	48,000	17,000	+4,000	+4,000	+4,000
10頁	55,000	50,000	0	59,000	54,000	18,000	+4,000	+4,000	+4,000

注) 11頁以上の場合は別途お問い合わせください。

6. 著作権

6.1 機関誌「Journal of the Vacuum Society of Japan」に掲載された論文等の掲載物の著作権(=著作財産権)は日本真空学会に帰属する。他の出版物に掲載する場合には、本学会の承諾を得なければならない。

6.2 論文投稿時には著作権の委譲に同意する。著作権の委譲を許可しない組織に属する場合は、その旨を日本真空学会事務局に連絡する。

6.3 他の出版物の著作権に抵触する場合は、著作権使用の承諾書を投稿原稿に添付する。

ご意見・ご要望は、編集事務局でお申出ください。

編集事務

株式会社アイセレクト

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-30-6 第3宝生ビル

TEL 03-6806-8503 FAX 03-6806-8504

E-mail editorial@vacuum-jp.org

機関誌「Journal of the Vacuum Society of Japan」投稿の手引き

1. 投稿にあたって

- 1.1 必ず「投稿規程」およびこの「投稿の手引き」に従い、原稿を作成する。原稿を執筆する前に、日本真空学会のホームページ <http://www.vacuum-jp.org/> も参照する。投稿原稿のテンプレート (MS-WORD) は <http://www.vacuum-jp.org/wp/wp-content/uploads/Template.doc> からダウンロードできる。
- 1.2 投稿は J-STAGE の投稿審査システムのホームページ (<http://mc.manuscriptcentral.com/jvsj2/>) から行なう。初回投稿時および修正原稿投稿時には、表題、(英文要旨)、論文本体、文献、図・表の説明、図、表を 1 つの pdf ファイルにまとめ、チェックシートとともにアップロードする。チェックシートの書式は <http://www.vacuum-jp.org/wp/wp-content/uploads/checklist1.doc> からダウンロードできる。

2. 執筆の要領

2.1 表現および体裁について

- 2.1.1 原稿は原則として投稿原稿のテンプレート (<http://www.vacuum-jp.org/wp/wp-content/uploads/Template.doc>) を用いて作成する。ページ設定は A4 判、原則として 27 字×33 行とする。
- 2.1.2 原稿は、表題、英文要旨 (研究論文・速報・解説)、本文、引用文献、図・表の説明、図、表の順にまとめる。
- 2.1.3 句点は「.」、読点は「,」を使う。
- 2.1.4 術語は、学協会などの公的機関で制定されたものを用いることが望ましい。例えば、真空用語は JIS Z 8126-1, 2, 3: 1999 (日本工業標準調査会 (jisc) のホームページ <http://www.jisc.go.jp/> において閲覧できる。「真空」(Shinku) 44 巻, 6 号 (2001) 会告に掲載) を参考にされたい。
- 2.1.5 日本語論文の中で欧語はなるべく使用しないこと。日本語になりきっていない術語は原綴で書き、なるべく英語を用いる。表題には欧語綴りの用語の頭文字 (イニシャル) だけを使った略語の使用は認めていない。
- 2.1.6 刷り上がり 1 ページは 1 行 27 字で約 100 行 (2700 字) に相当する。ただし図、表は 16 行 (430 字) とみなして数える。大きな図、表を使うときには、更にその分を考慮すること (詳細は 2.5.7 を参照)。なお、表題と英文要旨は 0.5 ページ程度であるが、表題が長く著者が多数の場合は 1 ページに及ぶことがあるから注意を要する。速報の場合は刷り上がり 3 ページ以内を原則とする。表題と英文要旨を除くテキスト部分 (図・表の説明を含む) と図と表のそれぞれの行数の合計を 230 行 (2.3 ページ) 以内にすれば、表題部を加えても、全体で 3 ページを越えない。

2.2 表題について

- 2.2.1 原稿の第 1 ページに、後記の例に従って必要事項 (表題、著者名、研究機関とその所在地) を書く。英語表題は、原著論文・解説・講座につける。他の種類の原稿でも必要であれば英語表題をつけてよい。
 - 2.2.1.1 英語表記の著者名については、後記の例にならって姓をすべて大文字にする。
- 2.2.2 表題において、略語の使用は原則として認めない。ただし略語の併記を認める。

例 第二高調波発生 (SHG) 装置, ポリエチレンテレフタレート (PET) フィルム, ダイヤモンド状炭素 (DLC), デオキシリボ核酸 (DNA), 微小電気機械システム (MEMS), 巨大磁気抵抗 (GMR)

 - 2.2.2.1 装置, 手法, 施設名などの固有名詞はその略語を含めて使用を認める。ただし、その説明となる語句を併記する。

例 計算ソフトウェア SIMION, プラズマ実験装置 GAMMA10
 - 2.2.2.2 例外として本誌では以下にあげる略語を認める。

B-A ゲージ, XHV (英語表記のみ, 和文では極高真空), UHV (英語表記のみ, 和文では超高真空)。

2.3 英文要旨について

研究論文・速報・解説には、150 語程度の英文要旨を原稿第 2 ページに付ける。英文要旨は J-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jvsj2>) において海外からも閲覧できるので、英文学術誌の英文の水準にあることが望ましい。場合によっては、ネイティブによる英文校閲を求めることがあ

る． 研究論文・速報・解説以外の原稿でも必要であれば英文要旨をつけてよい．

2.4 本文について

- 2.4.1 本文は、英文要旨のある原稿では第3ページから書き、その他では原稿の第2ページから書く。少なくとも本文にはページ番号を記入する。
- 2.4.2 論文項目の分け方は、大項目を1.、中項目を1.1、小項目を1.1.1などとする。
- 2.4.3 圧力の単位はPaを用いる。その他の物理量もSI単位を用いる。
- 2.4.4 量をあらわす記号はすべてイタリック、単位および元素記号はすべて立体とする。
- 2.4.5 数式はとくに印刷に便利のように注意し、二重添字、eの肩にのる字には添字などの使用は避け、文中に式を挿入する場合には a/b 、 $\exp(t/\tau)$ のような記法を用いる。
- 2.4.6 独立した数式は1行につき2行ないし、3行のスペースを取って書く。

[原稿第1ページの例]

真空科学技術の最近の発展*

真空 一男^{*1}・パスカル ブレーズ^{*2}・張 衡^{*3}

Recent Developments in Vacuum Science and Technology
Kazuo SHINKU^{*1}, Blaise PASCAL^{*2} and Heng ZHANG^{*3}

^{*1}Department of Vacuum Engineering, University of Vacuum Science and Technology,
3-5-8 Shiba-koen, Minato-ku, Tokyo 105-0011, Japan

^{*2}Département de physique, Université Blaise Pascal,
34 Av. Carnot, F-63006 Clermont-Ferrand, France

^{*3}Dipartimento di Fisica, Università degli Studi di Padova, via 8 Febbraio, 2, 35122 Padova, Italy

(Received _____, Accepted _____)

*平成21年11月5日第50回真空に関する連合講演会で発表

^{*1}真空技術大学真空工学科 (〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8)

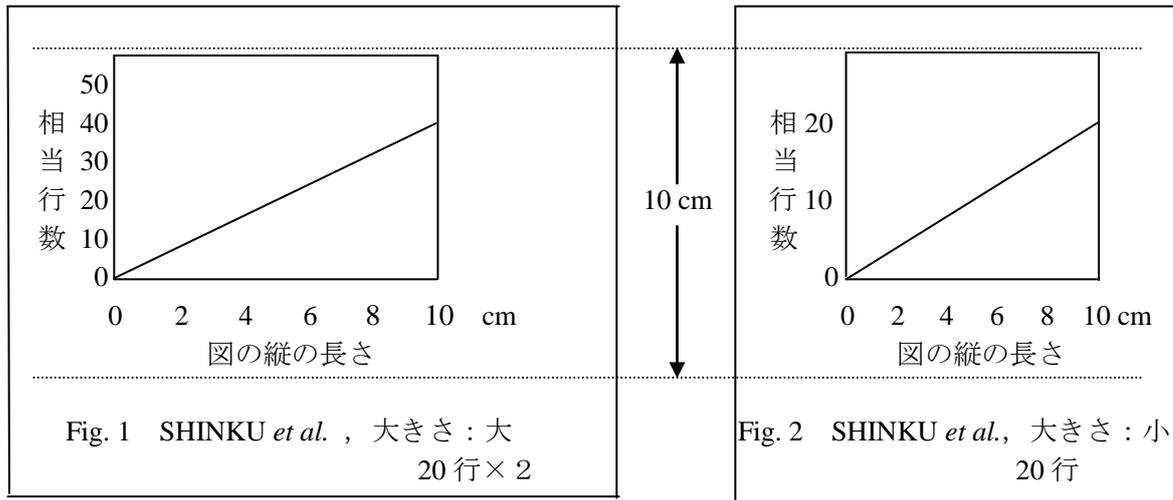
^{*2}ブレーズ・パスカル大学物理学科 (F-63006 クレルモン・フェラン, フランス)

^{*3}パドヴァ大学物理学科 (2-35122 パドヴァ, イタリア)

2.5 図 (写真を含む) および表について

- 2.5.1 図・表の題名と説明を集めた「図・表の説明」のページを付ける。原著論文・解説ではその説明を原則として英語で書く。英文は英文学術誌の水準にあることが望ましい。文頭文字のみ大文字とし、文末にピリオドを付ける。ただし化学記号、固有名詞等は通例に従う。
- 2.5.2 図および表の中の文章は、原著論文・解説の場合、原則として英文とする。
- 2.5.3 図および表は本文とは別のページにまとめる。写真は図として取扱う。図は、説明が英文の場合は、Fig. 1, Fig. 2, 日本語の場合は図1, 図2のように通し番号をつける。表は、英文の場合はTable 1, Table 2, 日本語の場合は表1, 表2のように通し番号をつける。誤りを避けるため、いずれも1枚ごとに著者名を入れる。
- 2.5.4 刷り上がりの大きさは次の2種類とする。小：横8.5cm未満，大：横8.5cm以上17.5cm未満（縦はいずれも25cm以内）。図のわきに小，大と書いて指定する。原図の大きさは刷り上がりの2倍が適当である。図中の文字が小さくならないよう，特に大きさに注意する。
- 2.5.5 刷り上がりページ数を明確にするため，大きさを行数で表示してもよい。刷り上がり1ページは1行27字で約100行に相当する。図は縦5cmが10行である。図のわきに小，大と指定する代わりに，希望する刷り上がり図の縦の長さ相当の行数を指定する。横が小の場合は行数（例えば20行）を，横が大の場合は行数×2（例えば20行×2）と指定する。ただし，図の題名や説明は別途「図・表の説明」のページに1行27字（英語の場合は45文字程度）で記載し，ここでいう図には含めない。

横大 (8.5cm 以上 17.5cm 未満) × 縦 10cm の図の例 横小 (8.5cm 未満) × 縦 10cm の図の例



- 2.5.6 著者がカラー図等特殊な版を希望する場合はその旨チェックリストに記載すること。著者の費用負担で実施する。
- 2.5.7 真空系の構成図などに用いる図記号は JIS Z8207・1999 (日本工業標準調査会 (jisc) のホームページ (<http://www.jisc.go.jp/>) において、閲覧できる。「真空」(Shinku) 26 巻, 11 号 (1983) pp. 875-887 に掲載) の規格に従うことが望ましい。
- 2.6 脚注・引用文献リストについて
- 2.6.1 脚注は, *, *¹, *² などの上付きの記号を付け, 原稿用紙の下欄に書く。
- 2.6.2 文献の引用は ¹⁾, ²⁾ などの上付きの通し番号を付け, 著者名, 誌名も含めてすべて英語表記にして論文の末尾にリストとして一括して書く。
- 2.6.3 雑誌からの引用は, 著者名 : 誌名, 巻 (発行年) ページの順に書く。著者名はすべて記載する。誌名は <http://www.vacuum-jp.org/EDT/JournalTitleAbbreviation.pdf> のほか、APS の <https://journals.aps.org/files/styleguide-pr.pdf> や <https://journals.aps.org/files/rmpguapb.pdf>, IEEE の http://www.ieee.org/documents/trans_journal_names.pdf などを参照して正しい略称を用いる。特に、「Phys. Rev. B」, 「Nucl. Instrum. Methods Phys. Res. B」, 「J. Vac. Sci. Technol. A」などの雑誌では A, B などの前に「,」は入れないこと。誌名や巻, ページに誤りがあると J-STAGE 上で正しくリンクされない。また, 巻数はボードの指定をする。
- 例 1. T. B. Lindemar, R. L. Pearson and K. Inoue: J. Nucl. Mater., **55** (1975) 359.
- 例 2. M. Sasaki, Y. Yamada, Y. Ogiwara, S. Yagyū and S. Yamamoto: Phys. Rev. B, **61** (2000) 15653.
- 2.6.4 2007 年 12 月までに発行された日本真空学会機関誌「真空」(Shinku) から引用する場合, 和文論文, 英文論文のいずれの場合でも誌名は Shinku とする。2008 年 1 月以降に発行された日本真空学会機関誌「Journal of the Vacuum Society of Japan」から引用する場合, 和文論文, 英文論文のいずれの場合でも誌名は J. Vac. Soc. Jpn. とする。
- 例 3. K. Suzuki: Shinku, **33** (1990) 371.
- 例 4. M. Kogoma: J. Vac. Soc. Jpn., **51** (2008) 2.
- 2.6.5 単行本からの引用は, 著者名 : 書名, (編者名), (出版社名, 出版地, 発行年) 版数, 巻数, 章数, ページの順に書く。書名はイタリックとする。
- 例 5. O. Kubaschewsky and C. B. Alock: *Metallurgical Thermochemistry* (Pergamon Press, Oxford, 1979) p. 65.
- 例 6. M. Nakamura and Y. Nakagawa: in *Handotai* (Semiconductor), ed. NameOfEditor (Shokabo, Tokyo, 1985) 2nd ed. Vol. 2, Chap. 2, p. 85 [in Japanese].
- 2.6.6 プロシーディングスからの引用は単行本に準じ, 著者名 : プロシーディングス名, 開催地, 開催年, 巻 (出版社名, 出版地, 発行年), ページの順に書く。著者名はすべて記載し, プロシーディングス名はイタリック, 巻数はボードの指定をする。開催年と発行年が同じ場合には発行年を省略する。
- 例 7. K. Kajimura: *Proc. 3rd. Int. Symp. Reinstoffe in Wissenschaft und Technik*, Dresden, 1985 (Akademie-Verlag, Berlin, 1986) p. 166.
- 例 8. K. Tasaka: *Proc. 7th Int. Conf. on Emerging Nucl. Energy Systems*, Chiba, Japan, 1993, **2** (1994) 203.

- 2.6.7 Web/インターネットからの引用は、URL と最後にアクセスした日付を必ず記述する。可能であれば、著者名、ページタイトル、出版日付も追加する。ページタイトルはイタリックとする。

例 9. The Vacuum Society of Japan, <http://www.vacuum-jp.org> (Last accessed: 2014-01-01)

例 10. The Japan Society of Applied Physics, *How to write a reviewer report*,
http://apex.jsap.jp/pdf/how_to_write_rev_rep.pdf (published May 2013, Last accessed: 2013-12-31)

2.7 英語論文の原稿について

英語版の「投稿規程」および「投稿の手引き」を参照すること。以下には主な和文原稿との相違点等を説明する。

- 2.7.1 原稿は原則として投稿原稿の英文テンプレート (<http://www.vacuum-jp.org/wp/wp-content/uploads/TemplateE.doc> からダウンロードできる) を用いて作成する。
ページ設定は A4 判, 原則として 64 字×32 行とする。
- 2.7.2 原稿の第 1 ページに表題・著者名等 (2.2 の要領に従い英文のみ) と英文要旨を書く。本文は第 2 ページより書く。
- 2.7.3 論文の長さは、種類により投稿規程に単語数で指定されたもので、和文の場合と同様とする。目安として、上述の原稿約 3 枚で刷り上がり 1 ページとなる。ただし、図、表は原稿 0.5 枚分に数える。大きな図、表を使うときにはその分を考慮すること。
- 2.7.4 英語表現については、全て著者の責任とする。ただし、英文学術誌の英文の水準にあることが望ましい。場合によっては、ネイティブによる英文校閲を求めることがある。

3. 初稿の校正

- 3.1 初稿の校正では誤りがないか著者の責任において確認すること。
- 3.2 初稿校正の際の加除筆は原則として認めない。
- 3.3 表題と著者名に誤りがないか必ず確認する。
- 3.4 著者の所属が異動したときは、現住所を脚注に追加する。
- 3.5 上ツキ、下ツキの添え字、ゴシック、イタリックなどの書式、ギリシャ文字、数式など間違いやすい箇所が正しく印刷されているか確認する。
- 3.6 図と表に現れる記号、図と表の番号と位置、図と表の説明が正しく印刷されているか確認する。
- 3.7 最終稿作成段階で印刷中であった引用文献のうち、発行されたものがあれば、**巻** (発行年) ページを記載する (2.6 参照)。
- 3.8 引用文献が英語で表記されていること、書式が正しいこと (2.6 参照)、著者名、誌名、**巻**、発行年、ページに誤記がないことを確認する。日本語で記された文献、書式が間違っている文献、誤りのある文献は J-STAGE 上でリンクされないので注意する。